

研 修 名	平成19年度ボランティア・市民活動コーディネーター養成講座		
主 催 者	いたばし総合ボランティアセンター		
所 在 地	〒173-0001 東京都板橋区本町24-1		
連 絡 先	TEL 03-5944-4601 FAX 03-5944-4602 URL http://www.ita-vc.or.jp		
推 薦 支 援 センター等名	いたばし総合ボランティアセンター		
研 修 分 類	1 学校と地域の連携を内容とする研修プログラム		
	2 その他（専門分野プログラム）		○
研 修 コー ス	1 基礎コース	○	2 スキルアップコース
	3 その他（ ）		

研修の実施に至る背景

コーディネーター養成は、その必要性から平成14年度から18年度まで、「ボランティア・市民活動コーディネーターセミナー」として計5回実施し、この機会に、日頃は個々に働くことの多いコーディネーターが一堂に会し、情報と意見を交換し、交流を深める場を提供することで今後のボランティア・市民活動の発展の一助になることを目的に開催してきました。

このセミナーも回を重ねるにつれ、すでにコーディネーターとして活躍している人材のスキルアップに加えて、今後コーディネーターとして様々な分野で活躍していただく新しい人材の確保という観点で、平成19年度から本事業に取り組んでいるところである。

研修の企画・立案

講座は、様々な分野・立場やスキルの違う参加者が想定されたので、コーディネーターに関する基礎的な講義に加え、コーディネーターに必要なスキルを身に付けるための実践的なプログラム作りの2構成と2日間の連続講座で行うことにした。

< 1日目 >

- 1 コーディネーター総論・・・・・・・・・・・・・・・・・・講義
- 2 実践者による事例発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・講義
- 3 選択講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・講義

- (1) コミュニケーション力
- (2) ファシリテーション力

< 2 日目 >

- 4 ボランティアコーディネーターについて・・・講義
- 5 コーディネーターの実際・・・・・・・・・・ロールプレイング

1 日目の 1 から 3 については、「コーディネーター」の意義、役割などの基礎的な内容を講義形式で学び、「コーディネーター」に対する理解と共通認識を深めるプログラムにした。

2 については、「私にはできない」という拒否反応を先行させないように、また身近に感じてもらうために実践者による事例発表を取り入れた。

3 については、(1) は基礎、(2) は専門性という意図の下、選択制にすることによって、参加者のスキルにあったプログラムを提供することとした。

講座は、原則 2 日間参加の講座であったが、基礎の部分だけ受けたいというニーズを想定し、1 日目のみの参加も認め、その定員を 20 名とした。

2 日目の 4 と 5 については、参加者に実際に体験してもらう学習方法が効果的と考え、内容に応じてグループワークとロールプレイの手法を取り入れることとした。

講師は、1 及び 3 (2) と 4、5 については、この分野で講師実績がある K T 福祉研究所に依頼することにした。

2 については、板橋区内を中心に活発に実践している方に依頼した。

3 (1) については、板橋区内に事務所があり、全国各地で主に傾聴ボランティアの養成活動の講師実績のある N P O 法人 P . L . A に依頼した。

研修の内容

①主催及び共催

主 催 いたばし総合ボランティアセンター

②対象者及び定員

対象者 社会福祉施設、N P O ・ボランティア団体・市民活動団体など、各機関・団体に所属し、ボランティアコーディネーターの役割を担う人、またはこれからコーディネーターを目指す人。区内在住・在勤・在学の方

定 員 40 名 (1 日目のみプラス 20 名)。1 日目のみの参加 O K

③研修プログラムの展開内容

平成20年2月16日（土）、2月17日（日）

会場：いたばし総合ボランティアセンター 第4ボランティア・NPOルーム

- 2/16 10:00～11:00 「コーディネーター総論」
講師 松藤 和生氏（KT福祉研究所）
- 11:00～12:00 事例発表 4名
- (1)「創る・ひろげる」
鈴木 好行氏（板橋フォーラム代表）
 - (2)「地域とつながる」
牧野 斉子氏（富士見高齢者在宅サービスセンター
所長）
 - (3)「収集・発信する」
藤井 純子氏（ほんわかスマイル代表）
 - (4)「育てる・引き出す」
川谷 勝晟氏（戸田地球温暖化防止グループ代表）
- 12:00～13:00 昼食・休憩
- 13:00～16:30 選択講座
- A：「コミュニケーション力」
講師 生木 ヨシミ氏（NPO法人P.L.A）
 - B：「ファシリテーション力」
講師 松藤 和生氏（KT福祉研究所）
- 2/17 講師 松藤 和生氏（KT福祉研究所）
- 10:00～11:00 講義「ボランティアコーディネーターの相談活動」
- 11:00～12:00 演習1「相談者のニーズを探る」
- 12:00～13:00 昼食・休憩
- 13:00～14:00 演習1の発表
- 14:00～14:50 演習2「相談活動のロールプレイ①」
- 14:50～15:00 休憩
- 15:00～16:30 演習3「相談活動のロールプレイ②」

④研修の実施に当たってのポイント・留意点

コーディネーターという職名でなくても、様々な領域で人と人または組織をつなぐ、また、事起こしという点でコーディネート機能を果たしている人は多数いる。これを踏まえると、コーディネーターには様々な役割が期待されており、限られた時間の中で細かく多様なニーズやそれぞれが抱える課題に応える講座の開催は極めて難しいと思われる。

この講座で工夫したことは、コーディネーターの多様なニーズに少しでも応えるために、コーディネーターに関する基礎的なことから必要なスキルを身に付けるための

実践的なプログラムまでを盛り込んだ段階的な講座設定を行い、一日のみの参加の枠と選択講座を設けたことである。また、現在コーディネーターとして活躍している方からの事例発表は、「生きた声」によるコーディネーターの実際の活動と「私にもできる」と受講者の背中をポンと押しってもらうような自信と勇気をもたらす内容をねらったものとして考えた。

研修の成果と今後の取組

受講者は、実際にコーディネーターとして活動している方は少数で、多くはこれからコーディネーターになることを考えている方だった。当方の予想では、もう少し経験者が多いと考えていた。受講者の反応としては、コーディネーターの役割と重要性について理解することができたという声が多く、とても役立つ内容であったという声も聞こえ、概ね好評であった。

この講座終了後、受講をきっかけに何人の人がコーディネーターとして活動を始めたか、また経験者にはどのような活動に結びついているかを調査していないことは反省点であり、講座後のアフターケアとして人によっては主催者側の「コーディネート」が必要だったのではないかと感じている。

今後もコーディネーターの人材の裾野を広げることの必要性は感じているが、次回は実際にコーディネーターとして活動している方を対象に、より専門的に資質向上を図るための講座を実施したいと考えている。そのために内容、対象者をはじめ、実施曜日・時間帯などの検討をしていく。

余談であるが、コーディネーター同士の情報交換の場を求める声が現場から聞こえており、研鑽の場ではなく情報交換会の実施の必要性も感じている。

執筆者職・氏名：いたばし総合ボランティアセンター主事 豊原 誠司

コーディネーターからの一言コメント

市民活動を推進するためにコーディネーターの指導的役割に着目し、長年にわたって計画的にコーディネーターを養成している努力を評価したい。コーディネーターに関する基礎的理解、専門領域を選択制にしたプログラムは、習熟、経験等の段階を考慮しており参考になる。特に、コーディネーターの活動上の不安、資質向上への欲求などに対応し、相互交流プログラムの充実を図るなど、学習ニーズに応じた今後の展開に期待したい。

(坂東 侑司)